

式 辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日、この春の良き日に松山東雲女子大学・松山東雲短期大学に入学された240名の皆さんをお迎えし、2024年度の入学式を挙行できますことを教職員一同大変嬉しく思います。ご家族の皆様にも心からお祝いを申し上げますとともに、お忙しい中を ご臨席たまわりましたご来賓の皆様に対しまして深く感謝申しあげます。

世界を席卷したコロナ禍も昨年五月より第五類となり、通常の生活が営めるようになりました。皆さんの高校時代は大学進学を目標として勉学に努めて来られたことと思いますが、感染拡大対策等で従来の学習とは違ったシステムや学習情報収集に戸惑われたことかと思えます。そのように、全世界の生活が従来とは違った環境となる中、皆さんが将来の自己実現を目指されてきたことに感銘を受けます。

さて、この四月から皆さんは長い歴史をもち、多くの先輩たちを排出した東雲の一員となります。私は皆さんにこれからの四年間あるいは二年間に更なる、高みに昇って欲しいと願います。そこで、入学式で皆さんに伝えておきたい事を申し上げます。

ベンジャミン・リベットはその著書「マインドタイム」の中で「今」という経験は常に0.5秒遅延している。その遅延の間、人それぞれの性格や過去の経験がそれぞれの事象の意識的な内容を変えてしまう可能性がある。つまり、人にはそれぞれ独自の意識的な現実があると言っています。そして、心は主観的な意識と無意識の心理的機能の両方を含んだ脳の全体的な特性であると言っています。このことは我々人類というのは完璧に自分自身の環境を客観的に把握することができない存在であると言えます。見たり聞いたり触れたりする身の回りの環境は大なり小なり個々人の過去経験である来歴に影響を受け、自分なりに解釈した環境を取り入れ理解していると言えます。経験値という言葉

葉があります。経験値とは経験したことと得ることができた知識を言います。言い換えれば直接実際の現場で培われた、勘や感覚などとして得た知識のことです。ベンジャミン・リベットが言うように私たちの思考や感覚は経験の中から、自分なりに環境を脚色して取り入れると言うことなのです。つまり、豊かな経験、価値ある経験が更に自分自身を高みに昇らせていくものであるとも言えます。これは失敗経験や自分にとって負となる経験を避けなさいと言うこととはありません。環境は自らの意図とは別に時事刻々と変化します。避けて通ることのできない思わしくない経験もあります。それは例えば百ある経験の中での一つであって残りの九十九を求めれば良いと言うことです。たった一つの失敗経験にいつまでも囚われていると、あなたを取り巻く環境が全て負の脚色がなされてあなたの心に負の連鎖、負のスパイラルとなって取り込まれていくのです。

もし、自らが負の連鎖に陥っていると感じたならば難しいかもしれませんが積極的に心の底から笑える環境にどっぷりと浸ることで、入力された環境刺激を少しずつ薔薇色に脚色していける可能性があります。そうすることで環境事象をプラスに方向づけることができます。バーバラとアランというご夫婦の作家がいますが、彼らは自らの体験から「自動的に夢がかなっていく」という著書の中でそのことを述べています。常に成りたい自分、心がウキウキ、ワクワクすること、友関係ができてくるといふのです。ですから積極的に魂が喜ぶ経験を積み重ねてください。但し、「夢を捨てずに夢に溺れない」という事を心に留めて夢を追い続けてほしいと思います。自分のいる環境を良い方向に変えることもできれば、悪い方向に変えることもできるのが人間です。人生のあらゆる結果を生み出しているのは場と自分自身です。更に、ジョー・ディスペンザは人間には一定の能力しか内在しない訳でも、遺伝子によって運命が既に決定している訳でもない。むしろ素晴らしい適応力によって変化できる力がある。と言っています。新しい事を学ぶたびに、それまで気付かなかった自分の可能性に気付く、その結果、自分が変化すること、これを知識と言ひ、知識を得ることができれば、物事を自分の思うように活かせることができます。これが「学習」で、

学べば学ぶほどあなた方の脳に新たなシナプスのつながりができます。ここでいう「学習」というのは机上の座学を指すのではなくより多くの豊かな経験を意味します。

これから四年間あるいは二年間は光陰流水、あっという間に過ぎていきます。学生生活を大切にしてください。失敗経験は正解への道標です。しかし、目的は正解を求めたのではなく、失敗を恐れずに常に新たな問いを探究する経験と勉学の旅が始まります。入学にあたり、皆さんが新たな自分を見つけることを希求し、入学式の式辞といたします。

二〇二四年四月二日

松山東雲女子大学
松山東雲短期大学
学長 高橋圭三